

各関係機関長様

熊本県病虫害防除所長

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況（技術情報第 4 号）について（送付）  
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

## 記

### 1 調査概要

- （1） 本年 5 月 16 日に、県内 13 地点の小麦から採集したヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒状況を、高比重ラテックス凝集反応法を用いて調査した。
- （2） 保毒虫は 13 地点のうち 11 地点で認められた。保毒虫率は平均 3.9%（平年 4.8%）と平年よりやや低かったが（表 1）、平成 16 年から高い水準が続いている（図 1）。

### 2 今後の留意点

- （1） イネ縞葉枯病の発生を防ぐためには、病原ウイルス（イネ縞葉枯ウイルス）を媒介するヒメトビウンカの防除が重要である。
- （2） ヒメトビウンカ第一世代の増殖場所となる麦の栽培面積が広い地域では、密度が高まるため、イネ縞葉枯病の発生に注意する。
- （3） イネ縞葉枯病の被害は感染時期が早いほど大きいため、箱施薬剤による防除に重点を置く。
- （4） 各種薬剤に抵抗性を獲得したヒメトビウンカの発生が確認されている。防除薬剤は、平成 23 年 4 月 7 日付技術情報第 1 号(<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H23/yasatu/gizyutu110407.pdf>)および平成 23 年度研究成果情報「主食用水稻での 4 種害虫に対する箱施薬剤の防除効果」(<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/47796.pdf>)を参考に選定する。

熊本県病虫害防除所 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所 病虫害研究室 予察指導係) 担当：東 TEL 096-248-6490
---

表 1 平成 23 年度 ヒメトビウカ of イネ縞葉枯ウイルス保毒虫状況

地点	検定数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
熊本市富合町新	96	6	6.3
熊本市城南町碓	96	5	5.2
玉名市北牟田	96	12	12.5
玉名市岱明町野口	96	3	3.1
山鹿市南島	96	4	4.2
菊池市赤星	94	2	2.1
菊池市七城町甲佐	96	4	4.2
合志市栄(農研センター)	96	1	1.0
大津町灰塚	48	0	0.0
嘉島町下六嘉	96	0	0.0
甲佐町早川	96	4	4.2
御船町小坂	96	2	2.1
氷川町若洲	96	6	6.3
<b>計 (保毒虫率は平均)</b>	<b>1,198</b>	<b>49</b>	<b>3.9</b>
平年値(過去 10 年の保毒虫率の平均値)			<b>4.8</b>

注) 供試したヒメトビウカは、平成 23 年 5 月 16 日に小麦から採集した。

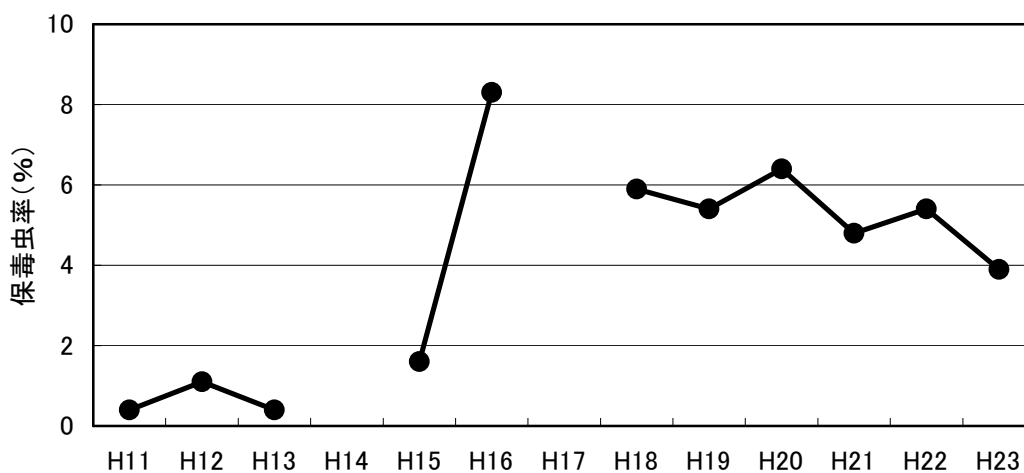


図 1 ヒメトビウカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

注) H17, H14 は調査していない。